



北区エバンジェリスト検証授業③

小4

生成AIの学習にチャレンジ! 王子第一小・中山雄太先生の実践

今や生成AIは社会では欠かせない便利な道具になっています。しかし、問題点も指摘されています。

問題点1 間違った情報が生成されることがある

問題点2 生成された画像の真偽は見分けがつかない

中山先生は、児童が間違いやニセの情報にまどわされないように、いち早くその問題を取り上げました。したがって、生成AIの授業と言っても生成AIの使い方を学習するのではなく、「情報を批判的に見る力」を身に付けることがねらいです。

▶1時間目は画像生成AIを児童が体験

授業は総合的な学習の時間の活動「わたしたちのSDGs」の中で2時間扱いとし、1時間目は画像生成AI、2時間目はテキスト生成AIを取り上げます。画像生成AIは、「きたコン」に入っている「アドビ・エクスプレス」で児童も使うことができるので、先に体験をして児童の関心を高めます。

▶画像生成AIに向いているテーマに気付く

まずは自由に操作させると、多くの児童は既成のキャラクターを生成しようとします。ところが生成された画像は既成のものとは似ても似つかぬものになります。これはシステムが著作権に配慮していることによります。

また、始めはひとつの単語だけで生成していますが、先生が複数の単語や文章で生成する例を見せると、児童はイメージに近い画像を生成できるようになりました。体験したからこそ、次のことを実感できたと思います。



①知っている画像を生成する意味はあまりない。

②間違ってる画像が生成されることがある。

③イメージした画像を得るには、具体的に指示する。児童は、とても熱心に話合いに参加していました。

▶2時間目はテキスト生成AIの疑似体験から大議論へ発展

テキスト生成AIは年齢制限があり児童は利用できないため、2時間目のテキスト生成AIでは、先生が操作して見せていました。題材は国語で学習している「ごんぎつね」です。生成AIに「ごんぎつね」の要約を指示したところ、関係ない人物が登場して、児童は驚いていました。

さらに、何枚かのフェイク画像と本物の画像を見せると、児童は区別がつかないことに気付きました。

2時間の学習のまとめとして、生成AIのよいところと気を付けるところをそれぞれが考え、グループで話し合いました。ここで、ある児童がポツリと、「頭が悪くなるから私は使わない。」とつぶやき、先生はすかさずその意見を全体に投げかけました。すると賛否両論が飛び交い、全体の話し合いに発展して議論が深まりました。

白熱した議論の末、児童たちで「AIも知らないことや間違い、ニセ情報もあるから、他の情報と比べて確かめる。そうすれば頭は悪くならない。」と、見事に冒頭の問題点をクリアした結論を導き出しました。4年生とは思えない思考力や表現力に本当に感心しました。児童も多様な考えを知るいい機会になったと思います。

◇2つの生成AI（文章、画像）を学習しての振り返り
・文章や絵を自分で考えなくて良いが、想像力が下がるので使いすぎるのは良くない事が分かった。この二つを組み合わせることでわかりやすくなる。（文章にあった絵がありわかりやすい）

児童は自分なりの活用方法を考えることができました。

「北区GIGAスクール通信 みらい」は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、学び未来課が毎月発行いたします。

きたちゃん コンちゃん
原作：ChatGPT by Toshi



生成AI時代に育てたい力

今月は生成AIがテーマなので、せっかくだから漫画のストーリーも生成AIの「ChatGPT」に考えてもらいました。いつもより面白かったと言われたら、作者としては複雑ですが…笑。

生成AIには情報の信頼性という大きな問題がありますが、生成AIで出力された情報なのかどうかを判別することはできません。小学生のうちから情報をうのみにせず、批判的に読み解く情報活用能力を育てたいものです。